

31P2-pm056

ツノザメ類における水銀蓄積について

○遠藤 哲也¹, 木村 治¹, 原口 浩一², 加藤 善久³, 太田 千穂⁴, 古賀 信幸⁴
(¹北医療大薬, ²第一薬大, ³徳島文理大香川薬, ⁴中村学園大栄養科学)

【目的】ホシザメとアブラツノザメは食用として利用されているが、両者とも雌は雄より体長が大きい。しかしアブラツノザメの寿命はホシザメよりはるかに長く、その肝臓は大きくて大量の脂肪を蓄積している。本研究はホシザメの筋肉および肝臓中の水銀濃度の加齢による蓄積の増加と性差を、アブラツノザメの場合 (Endo et al., 2009) と比較した。

【方法】2008年から2009年の期間に61頭のホシザメを青森市の鮫専門店から購入し、筋肉と肝臓中の総水銀を還元気化法で分析した。ホシザメの年齢は成長曲線より推定した。

【結果と考察】ホシザメの雄は雌に比べて成長速度が遅いため、同じ年齢で比較すると、雄の筋肉および肝臓中の水銀濃度が高かった。雌雄とも成熟後肝臓中水銀濃度が顕著に増加した。アブラツノザメの筋肉においても同様の性差が認められたが、大量の脂肪を蓄積している肝臓の水銀濃度は極めて低く、性差は認められなかった。これは水銀は脂肪にはほとんど分布しないことが原因と思われる。

